即興的に発信できるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を育む実践～中学３年英語科～

１　はじめに

子供たちの中には，人前で間違うことを恐れてなかなか発言しない…という者もいる。けれど，時代の恩恵なのか，人前でのパフォーマンスは案外嫌いじゃない子もいる。また，テレビでは英語が達者ではないが人気のある「リアクション芸人」が逞しく海外ロケでおつかいをしていた。それを見て勇気づけられた子も少なからずいたのではないか。

英語はパフォーマンスやリアクションが大切な教科だと考える。３年間で学習する言語材料の定着と技能の習得を目指しながら，生徒たちに楽しく実践的な活動や即興的に発信できるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を育んでいけるよう努めていきたい。

２　「自己決定ができる場の充実」

・自分で決めた題材を使った表現活動の設定

関係代名詞 that(目的格)を学習する単元で，教室内にあるものを自分で選ぶという自己決定の場を設定してｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ活動を行った。即興性も保持したかったので，あらかじめどれにするか選んでおくのを事前に伝えたのみであった。

教室の中にあるお気に入りの物を，各自選んで持ってくる様子。嬉しそうな表情がとても良かった。

私はこの巨大カップラーメン(小物入れ)をゲット!

私は「黒板」について発表したいけど，移動できないから前に立って発表しよう。

私は，黒板消しについて発表します!

This is the box that I like the best in this classroom.
(これは教室の中で私が一番好きな箱です。)

Oh, great!
(あぁ、すごい!)

Amazing!
(すごいですね。)

友達の発表をうなずきながら聞き，簡単な称賛も英語で言います。

恥ずかしがり屋の男子も，自分の好きなアニメキャラクターのクリアケースを見せながら，積極的な発表を行った。どうやら，本当に大切にしている物をわざわざ用意して，渾身の一文を発表してくれたのです。

This is the file that I like the best.
(これは僕が一番好きなファイルです。)

３　「知識・技能を活用する学習活動や比較・検討等，考える場の工夫や設定」

（１）　既習事項や経験の活用

ペアやクループの活動の際に，今までの授業で積み重ねてきた既習事項（称賛する表現，つなぎ言葉等）の使用や，リアクションを促す。

Wow!　Great!　Nice!　Good!　Wonderful!
Excellent!　Perfect!　Oh…　O.K.　Really?
Good job!　Beautiful!　Unbelievable!　Amazing!　etc.

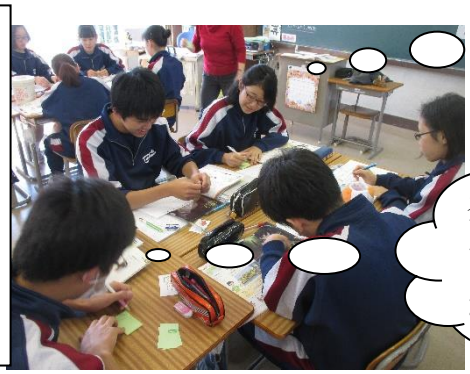
使いこなしたいほめ言葉やつなぎ言葉の例
教室内に掲示

ペア活動で双方向の会話の場面を設定し，つなぎ言葉も自然な状況で使ってみるよう，普段から使ってみることを大切にさせています。

伝えたい気持ちが言葉や身振りに表れます。

（２）　積極的な助言と称賛

班での発表の後に，コメントや称賛を全員で書きます。そのコメントを次の全体の前での発表に生かします。また，友達からの称賛の言葉は何より励みになっています。



笑顔で発表すると，もっと良くなるよ!

発表の声が大きくて，とても聞きやすかったです。

「練習→班ごとのリハーサル→助言→練習→全員の前で本番」という流れを通してより良い発表を作り上げる比較・検討の場として有効だった。

４　「共感的人間関係を育む教育活動」

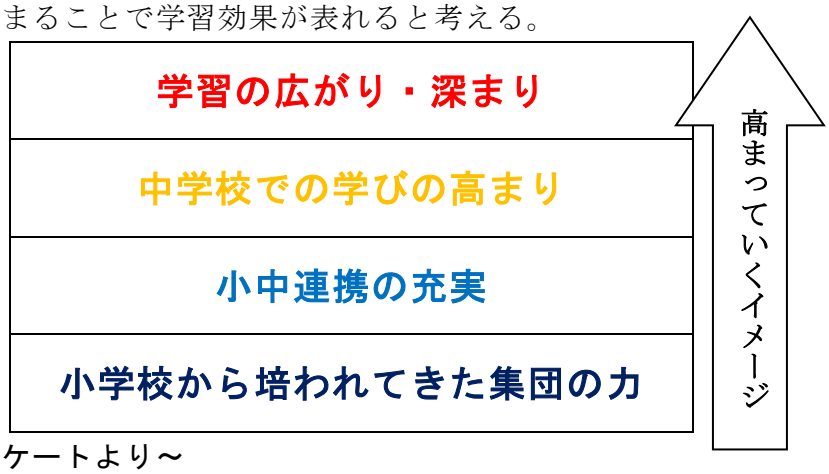
ペアやグループによる互いの良さを認め合う場の設定

分け隔てなく質問したり話し合いをしたりできる人間関係が相乗効果を生む。

メモを見ずに顔を上げての発表で，聞いている友達も発表者を見ながら聞いている。

緊張して言葉が詰まっても，温かく見守り応援する。

親和的な集団であるという土台は大変重要である。ペアやグループといった形態だけでなく，認め合いや学び合いから，友達の発表を称賛し，自分もより良い発表をしようとする意欲が高まることで学習効果が表れると考える。



～生徒アンケートより～

・友達と一緒に活動できたので楽しかったです。
・友達と活動したので，理解しやすかったです。
・パートナーや班などの活動を行うことで，理解が深まったと思います。
・グループに分かれての活動や発表は楽しくて好きなので覚えやすいです。
・班の中だけでなくみんなの前で発表したのですごく緊張しましたが，上手くできました！
・パートナーとの活動や班のみんなとの活動が自分にとっての進歩なので，とても進歩した日でした。

5　おわりに

日々の積み重ねが，失敗や間違いを怖れずに伝えよう，表現しようという土台となる。更に，言語材料の定着と技能を確実に習得することによって，「即興的に発信できるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力」のステップアップへつながると考える。失敗を恐れずにどんどん英語を使ってみたくなる授業を作っていきたい。